

令和 7年

11 月

地域リハOT 便り vol.21

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、亀山市での取り組みについて紹介します。

亀山市での取り組み（地域リハ部・亀山市担当：夏目紫帆）

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」とされ、全国各地で認知症への理解を深めるための取り組みが行われています。亀山市でも、昨年は9月21日の「世界アルツハイマーデー」に亀山城をライトアップするなど、市役所を中心に継続的な啓発活動を実施しています。

本年度は、市の担当者から三重県作業療法士会にもお声がけをいただき、亀山市・亀山市社会福祉協議会・チームオレンジかめやま・三重県作業療法士会の4団体が協力し、「認知症に関するお薦めの本」を紹介するブックレビュー冊子を作成しました。この取り組みには、地域リハビリテーション部から3名の作業療法士が参加しました。

作業療法士は、病気や障がいがあっても「その人らしい生活」が送れるよう支援する専門職です。今回のブックレビュー作成では、作業療法士としての専門性を生かし、認知症の方やその家族が日々の生活を前向きに過ごすための工夫やヒントが得られる書籍を選びました。3名のOTがそれぞれの臨床経験を踏まえて6冊を選定し、推薦文を作成しました。

冊子と紹介した書籍は、亀山市立図書館の展示コーナーに並べ、市民の皆さまに自由に手に取っていただけるようにしました。展示づくりでは、「どのような配置なら関心を持ってもらいやすいか」「どんな空間ならゆっくりと本を選べるか」といった環境づくりの視点も取り入れながら準備を進めました。こうした過程でも、作業療法士の得意とする“人と環境の関係づくり”の力が発揮されました。

今回の活動を通して、市民の方が本をきっかけに認知症への理解を深め、支援の輪が少しずつ広がることを願っています。今後も作業療法士会として、地域のさまざまな団体と連携しながら、啓発と支援活動を続けていきたいと思っています。

